晴れたペルー日食

千葉香夜子

観測地　ケレーロス（アレキパの南西、車で１時間30分）

S　16°　51′　54.5″

W　72°　01′　27.2″

標高　約1200m　　（ＧＰＳにて測定）

旅行期間　　10月31日～11月14日

旅行した国　ペルー、ボリビア、ブラジル

費用　　一人　914000円

メキシコ日食で唯一曇ったマサトランより３年、再度札幌より自主ツアーを組むことができました。インカの遺跡めぐりとチチカカ湖、イグアスの滝にサンバショーと声をかけ、集まった物好き16名と添乗員１名。

観測地は最初、ラ・ホヤの近くマリアノ・メルガノ空港を希望していたのですが、現地より一番いい場所を選ぶので任せてほしいと連絡がありました。

宿泊はアレキパのホテル、エルサレン。朝３時にホテルを出発し、４時30分間測地に到着。見渡すかぎりの砂漠の中、西側に約100m、東南に約30mの小高い丘があり、ミスティ山が遥か遠く北東で雲に隠れています。そして空全体も雲。また「だめかな」と頭をかすめる。

第一接触も雲の中。現地のガイド、ダンテさんが「ここはＮＡＳＡが観測に使う場所で、この付近では一番天候のいい所、僕は二日前にも来たけれど晴れた」と心強い言葉がありました。

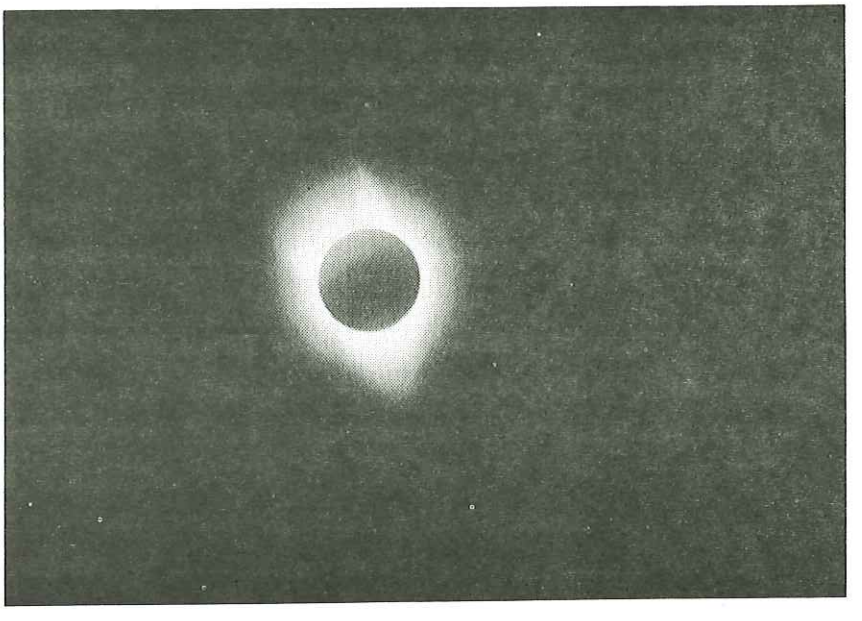
私たちの他にメキシコよりの宗教団体が新しい太陽に向かい踊りとお祈りを捧げています。ガスのかかったモエンドより車を飛ばして来た日系人家族、アレキパ、コレオの新聞記者、付近の住民と合わせて60～70人くらいと思われます。まわりにはペルー軍が機関銃を持って警備をしていました。

神様は私たちを見捨てませんでした。皆既の20分くらい前より雲が薄くなってきました。添乗員の10分前、５分前の声が響く。83年のジャワ日食以来やっとまともなコロナが見られると思いました。「１分前」の声とともに非常に暗くなり「ウワー、イケー」の声がかかる。予定通り1/250秒より始めるが、シャッタースピードが見えない。「やっぱりライトがいる」と一人でブツブツ。「１分経過」。目が慣れてかろうじてシャッタースピードが見えた。また1/250～１秒まで写す。コロナの流線がシャープに見えるが小さいので極小期のコロナだなと思った。青っぽい色にも見える。空全体も暗い。姪の千春が「星４コ見え

る」と叫ぶ。「星が６コ見える」と栃木栄太君（小学校５年）。1981年のシベリア日食に暗さがにていると思った。まわりをじっくり見渡すと、太陽の周囲のみ雲がない。あとは雲だらけ。ひねりの入ったコロナも見える。肉眼ではプロミネンスが確認できない。

第３接触、私のためにだけ見せたダイヤモンドリングに思える。「ウワー」という声とともに終わった。「ダイヤの指輪なんかいらないわ」と進藤さん。

ペルーと言い続けて３年。方の力が抜けた気がしました。シャドーバンドも確認できず、第４接触もそこそこにまた砂漠の中を猛スピードでバスはアレキパに戻る。

これからが本番の南米旅行が始まる。高山病と下痢に苦しみながら２ｋｇ痩せ、吹雪でマイナス５度の千歳に着いたのは11月14日20時でした。

参加者：中田定輔、亀谷富信、佐藤　清、伊藤政夫、後藤栄雄、斉藤隆基、
西野　博、栃木吉彦・律子・栄太・奈津子、進藤紘子、長谷とき子、
菊池敏子、加藤千春、千葉香夜子、遠藤勝博（添乗員）